

広島県地震被害想定調査検討委員会（第2回） 議事要旨

1 検討会の概要

日 時 令和7年1月9日（木）16時00分～18時40分
場 所 広島県庁 北館2階 第1会議室（オンライン併用）
出席委員 別紙出席者名簿のとおり。（全委員出席）

2 議事要旨

（1）第1回検討委員会における指摘事項への対応等

令和6年5月20日に開催した第1回検討委員会における各委員からの提言への対応案について、事務局から説明を行った。

（2）地震動等の予測手法

事務局から、地震動、液状化、土砂災害の予測手法について説明を行った。

【委員からの主な意見】

- 地震動の予測について、資料中には気象庁マグニチュード（Mj）とモーメントマグニチュード（Mw）の両方の記載があるが、報告書においては、計算に直接関係があるモーメントマグニチュードのみの記載でよいのではないか。
- 広島県地震被害想定調査報告書（平成25年10月）（以下「前回想定」とする。）から震度に変更となる要因について、技術的な修正内容を具体的に記載する必要があるのではないか。
- 今回の調査において、どのような災害を対象としているかについては、より詳細に記載すべきではないか。
- 土砂災害の評価手法について、広島県は特に土石流が多い県でもあるので、将来的に独自の評価手法の検討を行ってもよいのではないか。
- 震度予測については、計算結果よりも大きな揺れが起こり得るため、その可能性を報告書に記載すべきではないか。

（3）津波浸水想定における計算条件およびデータ作成

事務局から、津波浸水想定における計算条件等について説明を行った。

【委員からの主な意見】

- 初期潮位について、設定方法の見直し等が必要ではないか。
- 堤防高のデータ作成にあたっては、堤防のデータ（図面等）と標高データ等に齟齬がないか確認すべきではないか。

(4) 被害想定予測手法

事務局から、被害想定予測手法等について説明を行った。

【委員からの主な意見】

- 道路被害の予測において、斜面被害を考慮するとあるが、(2)で説明のあった土砂災害の予測と考え方を整合すべきではないか。
- 道路被害の予測において、車線数を考慮すべきではないか。また、高規格道路においては側道等が整備されていることもあり、高規格道路とその他の道路で分けて考えるべきではないか。
- 木造建物被害の予測にかかる建築年代の区分については、1981年まで、1982年から1999年、2000年以降の3区分程度でよいのではないか。
- 建物被害の算出にあたって、耐震補強の実施状況が把握できるのであれば考慮すべきではないか。

以上